

第12回全国

The 12th **SOGEN** Summit & Symposium
in kushima, kawaminami

草原サミット・シンポジウム

in 串間・川南

草原の持つ公益的な役割や価値について広く国民にアピールするとともに、全国各地で取り組まれている草原保全活動の現状と課題に関して議論を深めながら、草原保全に取り組む全国の自治体や草原保全の担い手、NPO法人等の共通認識を醸成し、今後の活動に向けて連携と交流を図ることを目的に「第12回全国草原サミット・シンポジウム」を開催します。

『黒潮洗う野生馬の草原とトロントロンが育む湿原』

【期間】2018年5月12日(土)～14日(月)

【場所】串間市文化会館、サンA川南文化ホールほか



5月12日(土)13:00～18:30 第12回全国草原シンポジウム
(串間市文化会館・串間市アクティブセンター)

基調講演Ⅰ「野焼きが育てた日本文化～茅・屋根・信仰～」

永松 敦(宮崎公立大学人文学部教授)

基調講演Ⅱ「宮崎の草原湿原と植物多様性の現状」

南谷 忠志(宮崎植物研究会会長)

分科会 ①『地域の宝』の草原・湿原を守るには？

② 草原環境と持続可能な観光活用

③ 茅と人々の暮らし

④ 保全技術の継承と安全対策

5月13日(日) 現地見学会

9:00～10:00 国指定天然記念物 岬馬及びその繁殖地(都井岬)

14:30～16:00 国指定天然記念物 川南湿原植物群落

交流会

18:00～20:30 フライダルホール 竹乃屋

5月14日(月) 9:00～12:00 湿原シンポジウム(サンA川南文化ホール)

12:30～15:00 第12回全国草原サミット(ホテル竹乃屋)



開催地

宮崎県串間市

串間市は宮崎県の最南端に位置し、沿岸部は風光明媚な日南海岸国定公園に指定され、ワシントンヤシヤソテツ、青い海と白い砂浜が、南国情緒あふれる素晴らしい景観を有しています。草原としては、国指定天然記念物の野生馬が生息する『都井岬』や、希少動植物が多数生息する『笠祇・古竹草原』などがあります。これらの魅力を満喫できる、野生馬ガイドなどのエコツアーもあり、串間市はエコツーリズム推進法に係る九州初の国認定地域となっています。

宮崎県川南町

川南町は、総面積90.12平方キロメートル(東西約12キロメートル、南北約10キロメートル)、日向灘に面した宮崎県のほぼ中央にある人口約16,000人の町です。海や山などの自然環境に恵まれており、全国各地から農業を志す人々が集まり拓かれたことから、「川南合衆国」と呼ばれ、畜産を中心に全国でも有数の農業生産量を誇っています。平成18年度にスタートした定期朝市「トロントロン軽トラ市」(軽トラック等の荷台に野菜や果物などを載せ、販売する定期朝市)は、全国三大軽トラ市の一つに数えられ、出店数、来場者数、開催数(出店140台、来場者10,000人集客)が日本一であります。

全国草原シンポジウム【初日】

(基調講演・分科会) (串間市文化会館ほか)

5月
12日(土)



12:30～ 受付

13:00 開会

13:15 基調講演Ⅰ 永松 敦 (宮崎公立大学人文学部教授)



「野焼きが育てた日本文化～茅・屋根・信仰～」

宮崎県では茅葺屋根の民家はほとんど廃れているが、茅葺屋根を集落全体で残そうと努力している地域や民衆全員が茅葺の技術を伝承している地域がある。民俗技術を伝承するには各地域の技術を伝える努力が必要となる。日本人にとって「カヤ」とは何なのか。多方面から茅の文化を見つめ直す。

略歴 2004年 宮崎公立大学助教授
2007年 同大学教授
日本民俗学
民族芸能・焼き畑・狩猟の調査研究を行い、近年野焼き文化を考える。

14:05 基調講演Ⅱ 南谷 忠志 (宮崎植物研究会会長)



「宮崎の草原湿原と植物多様性の現状」

宮崎県は気候温暖で降水量も多く、また多様な自然環境がある関係で、生育する植物は極めて多様であり、固有種も多い。しかし、近年になって里山とりわけ草原や湿原の荒廃が急速に進み、多様性は確実に失われてきた。その現状を紹介する。

略歴 1963年～2000年 宮崎県立高校教諭、宮崎県総合博物館副館長
2002年～2016年 宮崎大学教育文化学部非常勤講師
所属学会 日本植物分類学会、日本シダの会九州支部長

15:00 分科会「串間市文化会館」「串間市アクティブセンター」4会場

第1分科会

『地域の宝』の草原・湿原を守るには？

宮崎大学農学部

草原・湿原の多くは失われ、残ったものは貴重な「地域の宝」となった。希少な動植物を守るにはどうすれば良いのか？様々な制度、研究、市民活動について議論する。

第2分科会

草原環境と持続可能な観光活用

串間エコツーリズム推進協議会&串間市

草原を守りながら活かすには？ガイドツアーや環境教育のほか、伝統的な保護活動も体験メニューにすることで、草原は地域交流の場にもなる。草原環境を核にした、持続可能な観光と地域の元気づけを考える。

第3分科会

茅と人々の暮らし

宮崎公立大学&宮崎県

宮崎県の茅葺民家は特定の物件を除いて、なぜ他の地域に比べて見られなくなったのか？茅葺民家や集落を後世に伝える要因は何か、各地の事例を参考にしながら、地域創生の問題も含めて考える。

第4分科会

保全技術の継承と安全対策

全国草原再生ネットワーク

人手不足、高齢化が深刻化し、近年は火入れ事故も相次ぐなか、草原管理の技術を次世代に引き継ぐシステムと作業の安全管理体制を関係者間でどのように構築していくかについて議論する。

17:00 全体会
分科会からの報告、意見交換

18:30 閉会

都井岬、川南湿原見学会【2日目】

5月

13

日(日)

現地で草原・湿原に関する説明を聞き、散策します。

9:00 都井岬(串間市)見学

都井岬は、江戸時代初期に高鍋藩の牧場が設置され、その当時から続く日本在来馬が野生化したのが『岬馬』です。春にはハーレム群が形成され、子馬の誕生やオス馬の闘争など、興味深い野生馬の社会を観察でき、希少植物や糞虫など、草原の生態系も魅力です。岬馬は昭和28年に、馬としては唯一の国指定天然記念物となり、黒潮を望む美しい草原に、およそ110頭が生息しています。

10:00 移動

14:30 川南湿原(川南町)見学

川南湿原は、川南町のほぼ中央部に位置し、国道10号線から程近く、標高はおおよそ50m前後、面積は32,996㎡で新橋溜池から東に植物群落が広がります。昭和49年に国指定天然記念物となり、植物の種類は、78科298分類で、湿生植物が約110種類、うち約50種類が希少植物であります。近年の話題として、絶滅とされていた川南湿原が唯一の自生「ヒュウガホシクサ」が約50年ぶりに確認されました。

16:00 解散

18:30 交流会(ブライダルホール竹乃屋)

湿原シンポジウム【3日目】

5月

14

日(月)

(サンA川南文化ホール)

宮崎県内で保全活動により湿原等の地域の宝を堅守している方からの報告やパネルディスカッションを通じて、今後の湿原等の保全と活用を考えるシンポジウムを開催します。

8:30 受付

9:00 開会

9:15 講演 染谷 孝 (佐賀大学農学部教授)



「草原の秘密:野草堆肥の活用で安全・安心・高品質の農産物を!」

草原の草(ススキやカヤ)を堆肥化すると、植物病原菌を抑える「拮抗菌」が増える。これを活用して、安心・安全・高品質の農産物を生産している阿蘇地域の農家さん達の事例と、その秘密の微生物達を紹介する。

略歴 1982年～ 産業医科大学医療技術短期大学微生物学助手のち講師
1994年～ 佐賀大学農学部助教授のち准教授を経て教授
専門は土壌微生物学。特に、植物病原菌を退治する堆肥の微生物について鋭意研究中。

10:25 事例発表及びパネルディスカッション

- 事例発表①「川南湿原の保全活動について」
- 事例発表②「北川湿原の保全活動について」
- 事例発表③「和石地区の保全活動について」

全国草原サミット【3日目】

5月

14

日(月)

(ホテル竹乃屋)

「草原湿原の活用・担い手問題」をテーマに草原・湿原を有する全国の自治体首長によるサミットを開催します。

12:00 受付

12:30 開会

12:45 シンポジウムの報告

13:00 各自治体首長のサミット

14:40 「第12回全国草原サミット宣言」採択

15:00 閉会



参加申込み・交通アクセス



参加申込み方法

平成30年3月31日までに、参加申込用紙(別紙)を郵送、ファックス又はメールでお送りください。
4月末までに、郵送、ファックス又は電子メールにより申込確認をお送りします。

参加費 無料(宿泊・交通費別)
交流会 5,000円(プライダルホール竹乃屋)



交通アクセス

串間市

《自動車》

宮崎自動車道田野ICから約90分
福岡から4時間30分(九州道・宮崎道・東九州道)
熊本から3時間20分(九州道・宮崎道)
大分から3時間50分(東九州道)
鹿児島から2時間(九州道・宮崎道・東九州道)

《飛行機》

東京→宮崎空港 約1時間50分
大阪→宮崎空港 約1時間5分
福岡→宮崎空港 約45分

《JR》

日南線 JR宮崎駅 → JR串間駅 約140分

《フェリーさんふらわあ》

大阪南港～鹿児島県志布志港 約15時間

川南町

《自動車》

東九州自動車道都農ICから約15分
高鍋ICから約10分
福岡から4時間10分(九州道・大分道・東九州道)
熊本から3時間(九州道・宮崎道・東九州道)
大分から2時間20分(東九州道)
鹿児島から2時間20分(九州道・宮崎道・東九州道)

《飛行機》

東京→宮崎空港 約1時間50分
大阪→宮崎空港 約1時間5分
福岡→宮崎空港 約45分

《JR》

日豊本線 JR宮崎駅 → JR川南駅 35分

○宿泊施設については、参加申込書裏面を参考にしてください。



<https://sites.google.com/site/12thsogen/>



主催：全国草原サミット・シンポジウム in 串間・川南大会実行委員会

【構成団体】 串間市、串間市教育委員会、川南町、川南町教育委員会、都井御崎牧組合、串間市古竹地区自治会、串間エコツーリズム推進協議会、串間市商工会議所、串間市観光物産協会、川南湿原を守る会、川南町自治公民館、川南町商工会、川南町観光協会、宮崎植物研究会、全国草原再生ネットワーク

事務局/川南町教育委員会 教育課

〒889-1302 宮崎県児湯郡川南町大字平田2386-3
TEL 0983-27-8020 / FAX 0983-47-0503
e-mail sports@town.kawaminami.miyazaki.jp